

全4回の

「鶴川駅南口のまちなみをつくる会」のまとめ

全

4回にわたって開催された「鶴川駅南口のまちなみをつくる会」において、各回のテーマで得たまちなみをつくる工夫を16のカードにまとめてみました。その上で、参加者のみなさんに、「鶴川駅南口エリア」のまちなみをつくる上で、特に重要だと思うものを3つ選んでももらいました。（下の各項目の●の数が、選んだ方の数になります）

人の歩く位置で
道を3つに分ける
歩車分離の道
歩車共存の道
歩行者専用の道

隣接する敷地を
とりこみ、
まちに居場所を
つくる

自分の敷地が
まちなみの
一部になる

まちに
顔を向けると
まちが変わる

自分の敷地と
まちの境界を
意識する

みどりの
豊かさが
まちの文化度を
あらわす

みどりを
みんなで育てる

みどりを育てる
ことは子育て
するようなこと

建物や人のための
灯りをみんなで
つくる

歩きたくなる
まちにする

いろんな日常と
非日常で過ごせる
場所があるまちは
誰かと過ごしたく
なる

動植物に
顔を向けると
身近な自然の
価値観が変わる

みどり豊かな
まちにする

まちの灯りが
防犯性を高める

場づくりを
自分ごと化すると
まちがワクワク
する場になる

「つくること」
だけではなく
「育てること」

参加者の皆様が「まちの灯りが防犯性を高める」と「人の歩く道と歩車分離」について特に重要と思っていることがわかりました。この4回を通して、まちづくりに対して様々な重要な事を皆様が学ぶことが出来ました。まちなみをつくる要素は「11項目+人」や、自分ごと化してまちなみを考えるなど、共通する価値観を共有できたことは、「鶴川駅南口らしいまちなみ」をつくっていく過程で、個人としても地域としても意識していければと思います。

鶴川駅南口のまちなみをつくる会 とは？

鶴川駅の南口エリアにおいて、「良いまちなみは何か？」を専門家から学びながら、南口ならではのまちなみのつくり方を区画整理区域内の土地・建物所有者の方と町田市が共に考える場（全4回）です。



各回で書き込み式の
「ワークノート」をお渡し



最終的には4回分をまとめた
「ハンドブック」になります

問い合わせ
町田市都市づくり部地区街づくり課
TEL 042-724-4214
〒194-8520
東京都町田市森野二丁目2番22号
E-mail: toshi070@city.machida.tokyo.jp



鶴川駅南口の まちなみをつくる会 第4回のテーマは 「居心地のよいまちとは？」

最

終回となる第4回目の冒頭では、この全4回のワークショップの目的である「鶴川駅南口ならではのまちなみのつくり方を自分たちで考える」を振り返るところから始まりました。前の3回のワークショップで学び考えてきたテーマをまとめる形で「居心地のよいまち」について考えていきました。「居心地のよさ」とは正解があるものではなく、どんな要素を「居心地がよい」と感じるかを、これまでの写真を元に言葉にしてピックアップしていきました。さらに、ピックアップしたものを「鶴川駅な

らではのまちなみ」として考えていくことで、具体的なヒントを再発見していきました。

【鶴川駅南口でも取り入れられるヒントの例】

- ・活動に合わせた使い方により、子供からお年寄りまで親しみが持てるような公園。
- ・滞在ができるベンチやプランターの緑の活用。
- ・低い樹々によって空間を囲って居心地を。
- ・川を眺められる居心地の良い場所を。
- ・町田市以外からも訪れたいと思う駅前広場。など

【第4回はこのように進められました】

- (1) 「今までのおさらい」
- (2) テーマ共有講義「公園の管理・運営」TNA 宮崎さん
- (3) 講義「心地の良いひろばとは？」
ランドスケープアーキテクト
株式会社スタジオテラ 代表取締役
東京理科大学非常勤講師 石井 秀幸 先生
- (4) 模型とカードによる全体ワーク
「ご自身の敷地周辺について考えよう」



第4回開催概要

日時：2024年10月26日土曜 10:00-12:00
場所：和光大学ポブリホール鶴川3F 多目的室

テーマ共有講義

「公園の管理・運営について」

居心地のよいまちをつくる上で、公園をどうやって居心地よい場所にしていくかは大きな要素といえます。ここでは、鶴川駅南口の参考にするために、公園の管理・運営方法の事例を学びました。

【事例1 エリアマネジメント】

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組み

- ポイント1 「つくること」だけでなく、「育てること」
- ポイント2 住民・事業主・地権者等が「主体的に」進めること
- ポイント3 多くの住民・事業主・地権者等が「関わり合いながら進める」こと
- ポイント4 「一定のエリア」を対象としていること

【事例2 Park-PFI 制度】

主に公園を対象としている制度。都市公園において、飲食店、売店等の公園施設の設置または管理を行う民間事業者を公募により選定する方法

【事例3 指定管理者制度】

多様化する住民ニーズに効果的・効率的に対応するため、「公の施設」の管理に民間事業者等の有するノウハウを活用する方法



新しく整備した駅前広場を、エリアマネジメント方式で活用している横浜市の「みなまきラボ」の事例



渋谷区で Park-PFI 制度を用いて運営されている「北谷公園」の事例
(© 撮影：中戸川史明氏
設計：日建設計)

専門家によるまちなみの講義

「心地のよいひろばとは？」

ランドスケープアーキテクト / 株式会社スタジオテラ 代表取締役 東京理科大学非常勤講師 石井 秀幸 先生

人がそこに集まること自体が価値となる時代には、後世まで愛され続ける「まちの共有地」をどのようにつくっていくかが大切だと話す石井さん。「共有地」とは、自分の場所でもあり、同時にみんなの場所でもあるような空間のこと。石井さんは、その共有地を心地よく育てるためのポイントとして、「日常と非日常のバランス」「人以外の生き物との関わり」「自分たちが気軽に関わるしくみ」の3つを挙げていました。

たとえば、町田市では、古くからの雑木林を活かした公園である薬師池公園四季彩の杜西園があります。この公園では、日常は地元の方が散歩や読書を楽しみ、イベント（非日常）の日には多くの来訪者を迎えています。日常を土台にしながら非日常を取り込み、思った以上に多くの方が訪れるようになったそうです。

また、埼玉県和光市の集合住宅の中庭では、小さな水辺や緑地が残され、

鳥や虫などの生き物が自然と集まるようになっていました。住民同士がお互いに話しやすくなっているとのことでした。

さらに、宮城県石巻市での事例では、地域の人々が実際に石を積んだり薪を使ったりして広場を一緒に整えていく過程が紹介されました。

今回の講義は、具体的な事例を通じて、共有地を育てるヒントが示された内容でした。日々の暮らしに寄り添いつつ、自然や人とのつながりを感じられる場づくりは、鶴川駅南口のまちを考えるうえでも参考になるポイントが沢山ありました。

【石井さんレクチャーのまとめ】

- ・**場づくりを自分ごと**にするとまちがワクワクする
- ・**動植物**に顔を向けると、身近な自然の価値観が変わる
- ・いろんな**日常と非日常**で過ごせる場所があるまちは誰かと過ごしたくなる



石井さんがランドスケープデザインを担当した町田市薬師池公園四季彩の杜 西園



埼玉県和光市の集合住宅



宮城県石巻市で広場をつくっている様子

模型ワーク

「3つのひろばについて居心地を考えてみる」



【鶴川駅南口の将来イメージマップ】

鶴

川駅南口では、まちに3つのひろばが計画されています。それぞれのひろばには、現在「あわりひろば」「集いのひろば」「育てるひろば」と、それぞれの場所や大きさ、まちの中での関係性によって違った名前を検討しています。このワークでは3つのひろばに対して「①どのような居場所があったらいいか」を考え、その上で「②皆さんだったら何ができるか」と、これからの「まちの共有地」のイメージと「自分ごと化への小さな一歩」を考えるワークを行いました。

あわり
ひろば

- 【どんな居場所がいい？】
- ・住宅の隣にあって公園を考えたい
- ・川に近づく場所
- ・木陰や木製のベンチ
- ・大きな木ではなく小さめの木の方がいい
- ・もっと商業施設を増やすべき



- 【自分だったら何ができる？】
- ・パトロールをする
- ・ゴミを拾う
- ・木を管理するイベントを開催したら、参加したい

など

など

集いの
ひろば

- 【どんな居場所がいい？】
- ・地域の案内板がある
- ・駅前広場にもっと緑を
- ・川が見える場所を
- ・缶コーヒーやお茶が座って飲めるベンチ
- ・ムクドリが集まりにくい木を植える



- 【自分だったら何ができる？】
- ・ゴミを拾う
- ・地域の方々と協力しながら清掃活動をしたい
- ・マイカップを持参する

など

など

育てる
ひろば

- 【どんな居場所がいい？】
- ・防犯機能を兼ね備えるといいのでは？
- ・車の心配がないから、子供に安心な公園
- ・芝生、手洗い場がある広場



- 【自分だったら何ができる？】
- ・見守り活動をする
- ・公共に関心を持つ
- ・毎日ゴミ拾いをする人がいる
- ・自分の住んでいる範囲は自分で管理する気持ちを

など

など



模型を眺めながら、それぞれのひろばの位置や特性を考え、どんな居場所があるといいのか？自分だったら何ができるのか？を考え、話し合いました。

